

＜「親子で登る自立の坂道」期：「子が親離れしていく」編－3＞

対象（時間）：小学4～6年生の親（110分程度）

さあ、どっち！？ ～信じる、見守る、待つ、聞く～

【ねらい】反抗期等多感な時期の子どもとの接し方から、親子のより良いコミュニケーションの取り方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、簡単な図形を書いたA4の紙（2種類、人数分）、白紙（人数分）、バインダー（人数分）

時間	アクティビティの展開	留意点	備考
：	○名札付け（来た順に）	○全員が名札をつける。（ニックネーム可）	※スケジュールを板書しておく。
（5分）	○ファシリテーター（学習支援者）自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。（肖像権）	・机は講義形式
（15分）	アイスブレイク （雰囲気づくり） 「聞いて聞いて」 ①ペアを作り、背中合わせに座る。 ②一人は図形を説明し、一人は一方的に聞き、図形を描く。（1分） ③次に、聞く側に質問権を与えて、図形を修正していく。（2分） ④交代する。 ⑤作品を見せ合い、感想を述べ合う。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 →一方の人は図形を描いた紙を持ち、もう一方の人は白紙を綴じたバインダーを持ち、背中合わせに座る。（図形を見られないように注意する。） →図形を変える。 ○一方通行（聞くだけ）ではなかなか理解できないことを実感し、双方向のコミュニケーションの大切さを考える。 ○「じっと聞く」ことがいかに忍耐がいるか、適度な相槌や質問がいかに理解を進めるかを、実感できるようにする。 ○最後にグループ分けし、自己紹介も行う。（その間にワークシートを配付する。）	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
（30分）	＜考えましょう、出し合ひましょう＞ ○P2を読んでP2上の設問に記入 ○グループで出し合う。 ○P3を読んでP3上設問に記入 ○グループで出し合う。	○P2、P3のエピソードは、配役を決めて読み合わせてもよい。 ○三つの約束（発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守）、ただし、言いたくないことは発表しなくてもよい。（パス有り）	
（25分）	○P3下の設問に記入し、グループでお互いの意見を出し合う。	○頭ごなしに叱る対応が、子どもとのコミュニケーションを阻害する可能性について考える。（ただし「叱られてスッキリした」等の意見も大切に作る。） ○「信じる」と「ほったらかす」ことの違いについて考える。（「何も聞かず、ただ見てくれていたのがうれしかった」等の意見も大切に作る。） ○時間があれば、グループで出てきた意見を模造紙にまとめるとよい。	
（10分）	○グループごとに発表		
（5分）	＜さらに考えましょう＞ ○ゆっくり読む。（P4上・5分）	※時間があれば☆、県民の声も読む。（県民の声は必ずしも「模範解答」ではなく、いろいろな意見があるということを示すためのもの）	
（15分）	＜学習を振り返りましょう＞ ○ワークシートへの記入 ○ファシリテーターの話		
（5分）	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			